

匿名シネマ

(一九九〇年 テアトルエコー第90回公演)

へ登場人物へ

● 第一話 『サンデーガール』

さくら

環(たまき)

活動の客

女学校の先生

女学生達

山下(影)

弁士

● 第二話 『All that's Chicken』

チキン(キッチンA)

ポテト

ニンジン

チキンB・C・D・E

ローストチキン

● 第三話 『透明人間』

高山 大三郎

高山 キヌ子

高山 裕二郎

高山 文蔵

豚珍軒(とんちんけん)主人

あき坊

精神分析医・熊

※ 栗島すみ子／岩田祐吉／山下(後ろ姿)／ダンスホールの客

大正十二年の人々(第一話)

スージー／トム／愛犬ブラツキー／ママ／パパ／クリスマスグッズ達

ジャガイモ／ニンジン等々(第二話)

ナレーター／留吉／患者・山田／リハビリに励む患者達(第三話)

(以上、スクリーン上の人々)

街の雑踏音に混ざって、商店街の宣伝放送が聞こえてくる。

“（ジングルベルのBGM）・・・三軒茶屋敬老会館では、お年寄りにクリスマススイヴを楽しく過ごしていただくための、様々な催し物を用意しております。浪曲の荒沢虎之介、漫才の極楽とんぼ・あめんぼ等々。ホカロンと紅白饅頭のおみやげ付きです。どうぞ、皆様、お誘いあわせの上、ふるってご参加ください。尚、当日は、老人無料パスをご持参ください。・・・栄町商店街、黒田精肉店のローストチキンは本格的ヨーロッパ家庭の味。当店独自のスパイスを効かせたジャンボタイプです。ご予約はイヴ当日の朝までうけたまわっております。・・・中華料理の豚珍軒。中華料理の豚珍軒は“安い・美味い・早い”の三拍子揃った店。大好評、豚珍軒セットは、ライス食べ放題で、たったの八百円。出前迅速、豚珍軒。トンといえば豚珍軒。チンといえば豚珍軒・・・”

明かり入ると、高山大三郎が、電話をしている。

大三郎

・・・あ、スタア座だけど。ラーメンまだ？・・・うん、いっちよ。うん。じゃ、頼むよ（切る）

大三郎、カウンターの奥へ、いったん引つ込む。

駅前商店街はずれにある映画館、スタア座のロビーと客席。
夜。

入場口には、小さいカウンターがあってチケットとプログラムを売っている。
ロビーには、ビニール製の固いソファとスタンド型の灰皿。

飲み物の自動販売機とポップコーンの自動販売機。

客席に客はいない。

大三郎“本日オールナイト”の立て看板を持って、カウンターの後ろから出てきて、表通りに置く。

再び入ってきて、壁の時計を見る。十時十五分前。

大三郎、通りをのぞく。

大三郎

今日は、客、こねえなあ……。閉めるかあ……。

ト、カウンターの後ろの暖房のスイッチを切る。

旧式にありがちな、ゴワワーンという音がして切れる。

大三郎、思いついて電話をかける。

大三郎

あ、スタア座だけど、さっき頼んだラーメンね……

ト、そこへ、老婆がふたり（さくら・環）入ってくる。

大三郎

（ふたりに）何？

環

二枚。

大三郎

え？

さくら

大人二枚です（ニコニコする）

大三郎

（あきらかに不機嫌になって、電話に）ラーメン、早くしてくれよ（切る）

大三郎、チケットを二枚出し、半券を渡し……

大三郎 二千元。

環 二千元だって。さくら、千円ずつよ。

さくら はいはい。

ふたり、財布をゴソゴソやる。

環、千円札を出して、さくらを待っている。

さくら はい（ト、環に渡すが）あ、待って、環。伊藤博文出しちゃった・・・（ト、

別の千円札を出し）ハイ、漱石の方・・・あー、あぶなかった。

環 持って歩かない方がいいわよ。

さくら そうなのよね。ちゃんと別に・・・

大三郎、苛々して、半券をつき出す。

環 はい、二千元ね（ト、渡す）

ふたり、ノソノソと歩いてソファに座る。

さくら よっころしょつと。・・・あー、落ち着いた。

環 （傍らのジュースの自動販売機を覗き込んで）あら、冷たいのばかり。この寒いのに・・・。（館内が寒いのに気付いて、大三郎に）寒いですよ。

カウンターに座って煙草をふかしていた大三郎、無愛想に暖房のスイッチを入れる。

再び、ゴワワーンという音がして、暖房入る。

さくら （紙袋から魔法瓶を出して）お茶、持ってきてよかった。

環 あら、用意がいい（自動販売機を横目で見て）あったかいのがあるところもあるんだけど・・・。

さくら ここにはないわねえ。はい（ト、お茶を渡す）

環 ありがとう。

さくら （飲んで）あー、落ち着いた。・・・ねえ、お赤飯とおいなりさん、どっちがいい？

環 あら、いつも悪い。

さくら ね、どっち？

大三郎 始まりますよ。

環 はい。もう、始まるんですって（ト、立つ）

さくら、出しかけたお弁当の包みをどうしたらよいか咄嗟に判断できず、うろろろする。

環 なかで食べましょ。さ（ト、紙袋やお弁当を持ってやる）

ふたり、客席の方に入る。

さくら あら、誰もいない。私たちだけよ。

環 ふふ、ほんとだ。

さくら なんだか悪いみたい。

環 すいてていいわ。

ふたり、席につく。

ロビーの大三郎、奥へ去る。

さくら

ごめんなさい、持たせちゃって（ト、お弁当の包みを受取り）あー、落ち着いた。・・（が、すぐに）あ、ちょっと持ってて。今、お箸出すから。

環

・・ねえ。

さくら

なあに？

環

マクドナルドにしない。

さくら

え？

環

さくらのは、後でいただきましたようよ。ね（ト、自分の紙袋をゴソゴソやる）

さくら

マクド・・（ト、覗き込む）

環

（マクドナルドの紙袋を取り出して）はい、フライドポテト。

さくら

フライ・・（ト、袋の中を覗いて手を入れ）・・ねえ、こういうのって、

古い油で揚げる？

環

え？・・そんなことないとおもうけど。

さくら

そーお？

環

嫌ならおよしなさい。食べなさんな（ト、袋を自分の方に寄せてしまう）

さくら

（自分の袋をゴソゴソやりながら）ねーえ、環。

環

（フライドポテトをたべながら）んー？

さくら

あの人・・よかったわねえ。なんてったつけ？シュワ・・なんとか・・ほら、お湯がシューシュー沸くみたいな名前の・・

環

（すらすらと）アーノルド・シュワルツェネッガー。

さくら

そうそう、そのシュワさん。

環

ランボーね。

さくら

そう・・え？・・じゃないわよ。シュツ、シュワツさんは・・えーと・・。

環 （当然とばかりに）そうよ。私はランボーの人がいいって言ってるんだわよ。

さくら ああ、あの人ね。スタ・スタ・スタ・

環 シルベスター・スタローン。

さくら そう、それよ、それ。

環 そうよ（頷く）

さくら そうよね……。あー、落ち着いた……。

明かり、落ちる。

音楽。

（２）スクリーン①

“第一話・サンデーガール”

無声映画『不如帰』^{ホトトギス}（浪子―栗島すみ子・武男―岩田祐吉）始まる。

（３）

舞台②

スクリーンに弁士あらわれる。

弁士 ここは逗子の海岸。遠く見渡すかぎり帆風さえ絶えて、天地の秋、しょうしうたり。

浪子 武男さん、治りましか、あたしの病気……。

武男 何をいうのだ、浪さん。治るよ、きっと治る。

浪子 でも、肺病は難病で……。

武男 治らんというのは、浪さんが僕を愛していないからだ。

浪子 治りますわ。きっと治りますわ。でも人間は、何故死ぬのでしょうか。生き

たいわ。千年も万年も生きたいわ。死ぬならふたりで、ねえ、ふたりで・

武男 浪さんが死んだら、僕も行きちやおらんよ。

浪子 ほんとう？嬉しい。

武男 こんな話はもうようそう。ふたりで長生きして、金婚式ののちまでも添いと
げようじゃあないか。

浪子は、良人の手をひしと両手に握りしめ、身を投げかけて、熱き涙をハラ
ハラと・・・

客席に明かり入る。

大正十一年。

十六歳のさくらと環が活動を見ている。

後ろに数人の客。

さくら ……ねえ、環。目玉のまっちゃん、いつ出てくるの？

環 （夢中で見ている）

さくら ねえったら・・・。

環 （うるさそうに）尾上松之助なんか出てきやしないわよッ。

さくら え。

環 ごらんなさいよ。栗島すみ子・・・綺麗ねえ・・・。

さくら ……環が、目玉のまっちゃんの活動に行くっていうから私・・・。

環 これ、なんべん見ても泣いちゃうの、私。

さくら うち、日曜はいつも家族みんなで、おひるを食べるきまりなのよ。だけど、
今日は、環がさ・・・。

後ろの客、咳払いをする。

環
し！。

さくら
・・・（不満）

弁士
ああ、武男さん、死んでもあたしはあなたの妻ですわ。未来の未来ののちまでも、あたしはあなたの妻ですわ・・・。

ああ、その声も、その面影も、生けるがごとくあるものを、戦地に傷ついてひとたび帰りしその時は・・・

環
（そつと涙をぬぐう）

さくら
・・・ねえ、ねりきり持ってきたの。

環
（活動に見入ってる）

さくら
（袋から出して）食べない？

環
え・・・（見て）やあねッ、活動にねりきり持ってくるなんてッ（ト、邪険につきかえす）

さくら
・・・。

環
（活動に見入ったまま）ハイ（ト、自分の方の紙袋をつき出す）

さくら
？（ト、覗きこみ）ガリバルジイ・・・これ、嫌いよ、私。環、知ってるくせに。

環
（苛々して）あんたってほんとに旧式ねッ。

アブラ

さくら
だって、これ、外国からきたんでしょう。日が経ってるわ。脂がかえってるみたいで嫌だわ。

環
（ムツとして）ふん。さくらなんか衛生ボウルでも食べてればいいんだわ。

環、ガリバルジイの袋をひたたくつてムシヤムシヤ食べる。

さくら、プウツとふくれて、ねりきりを食べる。

弁士
おもえば去年こぞの秋、風雲急を告げる出征前のあわただしい一日、この逗子の海岸に胸の病を患っている愛妻浪子を訪ね、ふたりが暫しの語らいに時をすごしたのも、同じ、この岩の上でありしに・・

環
・・・ねえ、さくら。・・・舞台協会のこと、おとうさまに話した？

さくら
環は？

環
さくらは？

さくら
・・・環は・・・話したの？

環
（苛々して）あたしが聞いているのよッ。

さくら
・・・まだ・・・。

環
ふうん、そう・・・。

さくら
環は？・・・はなしたの!?

後ろの客
しーッ。

環
（小声で）・・・私・・・。ねえ、さくら・・・。

さくら
なに？

環
私、舞台協会に入るのよそうとおもうの。

さくら
（思わず大声になって）え!?女優さんになるのよすの!?

後ろの客
しいーッ!

環
後で話そう。

さくら
わかった・・・。

環
うん。

さくら
違うわよ。わかったのよ。

環 え？

さくら 環、舞台じゃなくて活動の女優さんの方にしたんでしょ。

環 ど、どうして!?（わかったの）

さくら わかるわよ、それくらい。

環 ……。

さくら ねえ、一緒に舞台協会に入りましょうよ。“青い鳥”見たじゃないの。よかつたわあ、あれ、ものすごく。あそこに入れば、岡田嘉子や夏川静枝と一緒に舞台に出られるかもしれないでしょう。

環 ……。

さくら ……わかった…。

環 （苛々して）何よッ。さっきから、わかったわかったってッ。

さくら 環、松竹キネマがいいって…そう山下さんに言われたんでしょ。

環 え…。

さくら やっぱりね。山下さんがそう言ったのよね。わかってるものッ。

環 そうじゃないわよ。ただ…。

さくら ただ？

環 ……あのね、栗島すみ子に似てるって言われたの。

さくら 誰が？

環 私…。

さくら （思わずスクリーンと環を見比べる）

環 （照れて）や、やあね。からかったのよ、山下さん。

さくら そうね。

環 （ムツとして）からかったか、じゃなかったら…ちよつと…ちよつと似てるか…どっちかよ。

さくら （おもしろくない）

環 そんなこと言ったって……。だからさ言ってるじゃない。からかったのかあ、ちよつと似てたのかあ、そのどちらかなのよ。山下さんがそう言ったんだもの。

さくら そんなのどっちだっていいわ。私は栗島すみ子なんかより、岡田嘉子の方がずっと好きだもの。活動の女優なんて、金魚みたいに口をパクパクさせているだけじゃないッ。

環 そりゃ、私だって好きなのは岡田嘉子よ。でも似てるのは栗島すみ子・

後ろの客 あんたらッ、しゃべんなら、外に出とくれッ。

環 すいません。静かにします。・・・静かにしましょう、さくら。

さくら （完全にムクれる）

弁士 武男が取り出した一通の手紙。それこそは、今は亡き浪子の絶筆であった。

“もはや最期も遠からずと覚え候まま一筆残し参らせ候。ままならぬこの世に候えば、何事も不運と存じ・・・”

環 （弁士と一緒に呟き出す）・・・不運と存じ、誰も恨み申さず。このまま身は露と消え果て候うとも魂は永くおそばに付添いて・・・（感極まって泣き出す）

弁士 “ああ、浪さん、何故死んだ！”

環 ああ！（感動に咽び、さくらの腕を握る）

さくら （その手をはらって）あたしは、目玉のまっちゃんを見にきたんですものッ。
静かにしましょッ、環ッ。

弁士 ああ、泣いて血を吐く不如帰！

明かり、ストンと落ちて、

音楽（庭の千草）聞こえてくる。

女学生の歌声が聞こえてくる。

舞台③

明かり入ると女学校の音楽室。

教壇で指揮（観客の方を向いている）をしている女教師。

女教師の方を向いて（つまり観客には後ろ姿を見せて）歌っている女学生達。

女教師

この唄はアイルランドの民謡です。ファソラ〜ファ〜ミレ〜ドのファ〜ミレドはスラーでのびやかに、ち〜ぐさあ〜も〜と歌います。よろしいわね。

環とさくら、一番後ろで楽譜を持ったまま、向かい合ってしゃがみこみ、おしゃべりをしている。

環

山下さんね、慶応のお友達と活動の同人雑誌を作るんですって。

さくら

わあ、素敵ねえ。雑誌って、蒲田画報みたいなのかしら。

環

蒲田画報？さくら、あんた、知ってるの？

さくら

知ってるわよ、それくらい。だって私達、松竹キネマの女優さんになるんじゃないの。

環

さくら・・・も？

さくら

そうよ。私達、なんでも一緒にするって約束したじゃない。

環

・・・そんな約束・・・したっけ？

さくら

したわよ。山下さんね、活動の雑誌を沢山持っていращやるの。貸してくださったわ。

環

え・・・。

さくら

山下さんにね、環と私は、活動の女優志願なんですって言ったらね。

環 そしたら？

さくら 環さんは活発な人だからいいかもしれないけど、さくらさん、あんたは、お嫁にいった方がよかないかい、ですって。

環 ……。

さくら 失礼しちゃうわ。ふふふ。そうかあ、山下さん、活動の同人雑誌を作るのか

あ。あ、それで、この間、下宿にお友達がたくさんみえてたのね。

環 あ、あんた、山下さんの下宿に行ったことあるの？

さくら ええ。蒲田画報を返しに行ったの。

環 ……。

さくら 玄関に男物の下駄がたくさんあってね、山下さんのお部屋から笑い声が聞こえてきたわ。

環 上がっ…たの？

さくら まさか。そんな男の人がいっぱいいるところに、ひとりで入っていけるわけがないじゃないの。下宿のおばさんに渡したわ。

環 そ…そうよね。

さくら そうよ。やだア、環。ははは。

ふたりの前に立っていた女学生、じろりと振り返って睨む。

ふたり、慌てて立ち上がる。

女教師 さあ、では、最初から歌ってみましょう。

皆な、歌い出す。

♪庭の千草も 虫の音も

枯れて淋しくなりにけり…

環　　ねえ・・・さくら。

さくら　ん？

環　　・・・お見合いしたって言ってたじゃない。

さくら　うん。

環　　どんな人だった？

さくら　う・・・ん。目玉のまっちゃんに・・・似てる・・・かな・・・。

環　　えッ、じゃ、体の半分、顔!?(思わずクスッとなって、ちよつと馬鹿にしたふうに)でも、いいじゃない。さくら、最良だものね。

さくら　(環をひっぱてしやがみこみ、真剣な表情で)それがダメなの。

環　　あら、どうして？

さくら　似てるっていつでも、悪く似てるの。

さくら　(プツと吹き出して)そりや、相当ブオトコね。

さくら　そうなの。それに、私達、女優さんになるんじゃない。結婚なんてしないわ。でしょう？

環　　・・・それもそうね。

ふたり、頷き合って立ち上がり歌い出す。

環　　(ヒソヒソ声で)ねえ・・・さくら。

さくら　ん？

環　　山下さんの・・・下宿・・・行ったの・・・一度だけ？

さくら　(明るく)そうよ。今度は、環も一緒に行きましょう。

環、さくらをひっぱってしやがませる。

さくら　な、なによ。

環　あ・・・あたしだって、行ったことあるわよ、山下さんの下宿。

さくら　？・・・

環　だから・・・だから、これからも別々に行こう。

さくら　・・・いいけどお・・・。

女教師　環さんッ、さくらさんッ。

ふたり　は、はいッ（慌てて立ち上がる）

女教師　おふたりとも、さつきから何をしてるんですッ。

環　いえ、あの、ちゃんと歌って・・・

女教師　なかったでしょう。何をおしゃべりしてたんです。

女学生　先生。環さんとさくらさんは、男の方のお話をしていました。

女学生達、ざわめく。

女教師　静かに・・・おふたり、前に出ていらっしやい。

ふたり、すごすごと出ていく。

女教師　おふたりで歌ってごらんなさい。よろしいわねッ。

ふたり　・・・。

女教師　いいですねッ。

ふたり　は、はいッ。

前奏、始まる。

ふたり

♪にゝわのちいぐさあーも

むしいのねゝも・・

女教師

お声が小さいッ。

オドオドと歌うふたり。

明かり、落ちる。

♪露にたわむや 菊の花

霜におごるや 菊の花

ああ あわれ あわれ ああ 白菊

人の操も かくてこそ

雨音、音楽と重なる。

舞台④

雨が降っている。

とある路地裏。

上手の板塀に“裁縫教室”の看板。

下手より、環、傘もささず、赤い顔をして飛び出してくる。

環、裁縫教室の方へ歩くが、ふと立ち止まり、そつと唇を押さえ、幸せをかみしめる。雨に濡れているのも気付かない様子である。

板塀の内側から、さくら、風呂敷包みをかかえ傘をさして出てくる。

さくら 環。

環 (ぎょつとして) あ・・・さ、さくら・・・

さくら どうしたの?・・・やだ、濡れちゃって(ト、傘に入れる)

環 ありがと・・・お裁縫、ずるやすみしちゃった・・・

さくら 園山先生、怒ってらしたわよ。環さんは、まだ背縫いまでしかできてないのにつて。

環 えへへへ。

さくら どうするの?来週はもう仕上げよ。

環 だってえ、園山先生つて、もんのすごきびしくつて、なんべん縫ったつて、すーって糸抜かれちゃうんですもん。

さくら (くすんと笑う)

環 ふふふ・・・(ト、袖口で口元をおおい、ふと、指先が唇をさわる)・・・。

さくら (フト、風呂敷包みをぎゅつとかかえ) ふふふ・・・。

ふたり、それぞれの思いで微笑み合う。

さくら 環、傘貸したげる。

環 え?

さくら 私、山下さんの下宿に寄らなきゃなんないの。すぐそこだから、傘は山下さんに貸していただく。

環 えー!?

さくら (きょとんとして) どうしたの?

環 な・・・なにしに・・・行くの?

さくら お借りしてる雑誌を返すのよ。

環 山下さん・・下宿に・・いらっしやいって？

さくら ええ。万が一、留守だったら、おばさんにあずけといてくださいって。

環 万が一・・。ふうん・・。

さくら どうかした？

環 ・・ねえ・・見せて。

さくら え？

環 雑誌、見せて。

さくら ・・。いいけどお・・（ト、風呂敷包みを開ける）

環 （待ちきれず、さくらから“活動倶楽部”をひったくって）貸して、これ。

さくら え？

環 あたしが山下さんに返しとく。いいでしょ。

さくら え・・。

環 いいじゃない。おんなじことですよ。

さくら でも・・。

環 何よ。

さくら ・・それ、私が借りた・・

環 （カッとして）貸してくれないって言うの!? 山下さん、さくらには貸してくれて、あたしには貸してくれないって言うの!?

さくら そ、そうじゃないけど・・。

環 だ、だったらいいじゃない。

さくら ・・。・・。

環 ・・。・・。な、なによッ、こんなものッ（ト、投げ捨てる）

さくら あッ（慌てて拾う）

環 バカみたいッ。こ、こんなの読んだって・・さ、女優さんになれるってワケじゃないじゃないッ。

さくら 環・・・。

環 や、山下さん、さくらを馬鹿にしてるんじゃないのッ。

さくら ！

環 子供扱いしてるんだわッ。

さくら そ・・・そうね・・・そうだよね。あ・・・あたしも、そうだと・・・

環 何言ってるのよッ、本当はうれしくせにッ。

さくら 環。

環 こ、こんなものッこんなもの、なによッ（ト、ひったくってやぶり捨てる）

さくら 環！

さくら “活動倶楽部”をかかえこむようにして拾い、しゃがんだまま、しくしくと泣き出してしまう。

環 あたし・・・あたし、必ず、活動の女優さんになるッ。なってみせるわッ。さくらッ、あんたはッ？

さくら （グスグス泣いてる）

環 そんな、そんな泣き虫じゃ、女優さんにはなれないわよッ。

さくら （ビービー泣く）

環 さくらッ、あんたって女優さんにはむいてないとおもうわッ。あたし帰るッ。

環、駆け出して行ってしまう。

さくら、やぶれて濡れてしまった雑誌をそっと袂で拭く。

雨音、ひとしきり。

ト、背後に傘をさした人影。

さくら （気配に気付いて）・・・？・・・！・・・や、やました・・・さん・・・。

明かり、ふっと落ちる。

音楽（シューベルトのセレナード）

（6）舞台⑤

音楽、少し残って、明かり入ると、環の部屋。

向かい合って座っている環とさくら。

ふたり、無言のまま、暫くうつむいている。

蟬の声。

環 私・・・さくらには本当に悪いとおもっているわ・・・なんだか抜けがけをした

ように・・・。

さくら そんなこと・・・。

環 でも、もう、お母様にも話したの。

さくら え・・・ほんとう？

環 だって、いつまでも隠しておけるような事じゃないでしょう？そのうちお腹も目立ってきて・・・そうなってから、あれこれ言われたら、死ななきゃならないわ、私。

さくら ・・・・。

環 お母様ね、さめざめとお泣きになったの。どうしてこんな娘に育ってしまったんだろうって・・・。辛かったわ。

さくら ・・・・。

環 きつとそのうち、お父様にも話されるとおもうの・・・。ねえッ、さくらッ、

あたしを助けてね。あたし、きつとぶたれるわ。泣いてしまおうとおもうの。

さくら、私を慰めて。・・・でなきや私・・・とても・・・(泣き出す)

さくら
大丈夫よ、環。

環
(涙をぬぐって) ごめんなさいね。・・・山下さん・・・私をお嫁さんに貰っ

てくださるかしら。

さくら
ええ・・・。

環
・・・ほんとうにそう思う？

さくら
ええ・・・きつとお嫁さんに・・・(詰まる)

環
さくら？

さくら
(気を取り直して) だって、山下さんの赤ちゃんなんですもの。大丈夫。山

下さんだってきつと・・・。

環
私ね、さくら。自分でもこんなに山下さんを好きだったなんて知らなかった

くらいよ。本当におかしいわね。

さくら
・・・。

環
私・・・もし・・・もしも、山下さんに冷たくされてしまったら・・・あたし、死

ぬわッ。

さくら
し、しぬ!!

環
だってそうでしょう？とてもみっともなくて切なくて生きてゆけないわ。

(ふと、夢見るような表情になって) 雪の中で手首を切って死ぬの。それが

一番綺麗・・・。どこで死のうかしら・・・軽井沢・・・そう、軽井沢がいい。有

島武郎先生と波多野秋子が情死したところですよ。

さくら
環・・・ほ・・・ほんとうに死ぬの？

環
ああ、でもだめ。情死っていうのはふたりでするものですもの。軽井沢なん

て私には高嶺の花ね。・・・ああ、どうしたらいいの。ね、どうしたらいいと

思う？さくら。

さくら 環・・・きつと・・・きつと、山下さん、環をお嫁さんにして下さるわ。

環 ほんと？ほんとにそう思う？

さくら ええ・・・。

環 やさしいのね。私、赤ちゃんに、さくらという名をつけるわ。いいでしょ？

さくら そんなの・・・

環 ね、いいでしょう？

さくら ・・・女の子かどうかかわからないわ。

環 男だったら、桜丸にする。

さくら 環ったら・・・。

ふたり、顔を見合せて力なく笑う。

環 私・・・女優さんにはなれないわね。

さくら ・・・。

環 でも、山下さんのお嫁さんになるのだったら仕方ないわね。・・・さくらは？

さくら 私も女優さんにはなれないわ。

環 どうして？

さくら どうしてって・・・だって、環、あんた以前、そう言ったじゃないの。私は女優にはむいてないって。

環 私が？

さくら そう・・・。

環 私って、すぐそういう軽はずみなこと言っちゃうの。ごめんなさい、さくら、それ嘘よ。

さくら いいのよ。

環 ううん。あんたは、女優さんになるといいわ。私のことだったら気にしない

で。

さくら
（苦笑して）でもね・・・やっぱりたぶん、私、女優さんにはならないと思うの。

環
どうして？

さくら
お見合いの人・・・

環
ああ、目玉のまっちゃん。

さくら
・・・のできそこない・・・。その人と結婚することになると思うの。

環
そう・・・そうなの・・・。ねえ、さくら。

さくら
ん？

環
私達ふたりとも、結局、女優さんにはなれなくて、普通のお嫁さんになるのね。

さくら
そうね。

環
ねえ、私達、お友だちよね、一番の。

さくら
ええ。

環
本当？

さくら
ええ、環。

環
私、幸せ者ね。あんたみたいなやさしいお友だちを持って。あんたは、あたしみたいにふしだらじゃないもの。きっと立派なお嫁さんになれるわ。

さくら
（大きく溜め息）

環
ほんとうよ。私、真からそうおもってる。

さくら
うん・・・。

暫し、みつめあうふたり。

環
（さくらの手を取って歌い出す）

♪庭の千草も 虫の音も

枯れて淋しくなりにつけり

さくら ♪ああ 白菊

ふたり ♪ああ 白菊

ひとりおくれで 咲きにけり

環 さくらツ（ト、とびついて派手に泣きじゃくる）

さくら 環・・・（ふつと悲しみがこみ上げてきて）・・・お空から・・・大きな石かな

んかが落ちてくるかして・・・みんな・・・みんな・・・なくなっちゃったら

いいのに・・・。

蝉の声、ひとしきり。

明かり、おちる。

ト、突然、地鳴り！

（7）スクリーン②

関東大震災。

燃える街、逃げまどう人々。

そして、その後の、破壊された東京。

舞台⑥

昭和四年。

さくらの家。

さくら（声）さあ、あがつてあがつて。

さくら、環、入ってくる。

さくらは、ねんねこで赤ん坊をおぶって、手提げ袋をさげている。

環は洋装。

さくら、赤ん坊を寝かせて、奥の台所に消える。

環、あたりを見回す。

さくら（奥から）ほんとに搜したわよお。環のおうち、焼けちゃったでしょう。もう心配で心配で。うちも大変だったの。麴町のおばさまのうちが焼けなかったから、ごやかいになつてて。（茶を持ってやってきて）でも、無事だったのね。よかったわあ。ねえ、ずっと東京にいたの？

環　　ううん。千葉。

さくら　千葉？

環　　遠い親戚がいるの。

さくら　そう。それでわからなくなっちゃったのね。でも私、小川町のうちの焼け跡に立て札をしておいたのよ。麴町のおばさまのところにいますって。見なかった？

環　　ずっと千葉にいたもんだから。

さくら　そうだったの。でもとにかく、こうしてまた会えたんですもの、神様に感謝しなくっちゃね。あ、どうぞ（茶をすすめる）

環　　ありがと（ト、すすって、赤ん坊を覗きこみ）ね・・・ひよつとすると、この子、目玉のまっちゃんの子？

さくら　そう。二人目。顔が大きいの。枕からはみ出しているでしょう。

環　　ほんとだ・・・。あ、ううん、かわいいわよ。

さくら

（微笑んで）上の子は私に似てるのよ。今日はおばあちゃんの・・実家の母のところにいるんだけど。男の子のくせに、甘えん坊さんなの。おばあちゃん子で困るのよ。主人は大雑把な人だから、なにも言わないけど、おかあさまが、突然ここにお見えになることがあるでしょ。そんな時、小川町のおばあちゃんのとこにいつてますじゃねえ。・・ねえ、環の赤ちゃん、あ、もう赤ちゃんじゃないわね。六年もたつんですもの。男の子？女の子？山下さんに似てる？

環

う・ん・ん・ん。

さくら

会いたいわ。山下さんと一緒にきてちょうだいよ。主人もきつと喜ぶわ。（くすつとして）主人ったらね、私が、しょっちゅう、環のことを話すものだから、会ったこともないのに、もうせんから知ってるような気分になっててね、私がちよつと粗相をすると、環さんなら、そんなことはしないだろうよなんて・・失礼しちゃうのよ。私が、環のこと、とっても頭がよくって活発でつて言ってるからんだけど。うふふ。

環

あはは・・。

さくら

ねえ、環、あなた、もしかして働いてるの？

環

え？ええ。

さくら

わあッ、やつぱり！

環

どうして？

さくら

さつき銀座で会った時（くすんとして）私、あなただって知らないで、見惚れちゃったの。

環

見惚れた？

さくら

そうよお。だって、とってもハイカラな恰好して、颯爽と歩いてるんですもの。ああ、これが新しい働く女性っていうのなんだなあって。・・ほらさ、こっちは、ねんねこで赤ん坊なんておぶっちゃってるから。ふふふ。そした

ら、そのハイカラな人が環じゃない。もう、びっくりしちゃったあ。ね、どんなお仕事してるの？

環 私ね、シンガー・・・

さくら えーッ！シンガー!?シンガーって外国の歌を歌う人でしょう。すごいッ。環歌手になったの？アメリカの歌を歌うの？ジャズとかいうのでしょうか・・・へえ、そうよねえ。山下さんって昔からハイカラだったものね。環も山下さんの影響ね。すてきねえ。羨ましいわあ。うちの人なんて、てんでやぼったいのよ。ヨサホイ節がせいぜい。最近、東京行進曲、やっと覚えたみたいだけど。ふふふ・・・そーお、環がシンガーねえ。すてきねえ。

環 シンガーミシンに勤めてるの。

さくら え？

環 ダダダ・・・（ミシンで縫う仕種）のシンガー。

さくら あ・・・あら、そう・・・。

環 そ。

さくら でもでも、やっぱりすごいわ。やっぱり羨ましいわよお。

環 そーお？

さくら そうよお。だけど大変ね。妻であり、母であり、そして、働く女性！

環 私、まだ独身よ。

さくら え？

環 結婚してないの。

さくら なんですって!?どういうことだって・・・

環 山下さんとは結婚しなかったの。

さくら え・・・だって・・・。じゃあ・・・子供は・・・山下さんの赤ちゃん・・・

環 ・・・・堕ろした。

さくら なんですって!?

環 おろした・・・の。

さくら !!・・・。

環 ・・・・。

さくら、いきなり、環の頬をひっぱたく。

環 痛ッ、何するの!?

さくら ど、どうしてよッ。どうして墮ろしちゃったのよッ。あんたが、あんたが、

山下さんの赤ちゃんができたって言ったから、あたしはッ。

環 え？

さくら (ハッとする)

環 ・・・・さくら・・・あんた・・・。

さくら だってだって・・・環には、赤ちゃんができて・・・。

環 さくら・・・。

さくら ・・・・あの日・・・あの雨の日・・・私たちがケンカした日・・・私・・・山下さんの下宿で・・・私・・・。

環 さくら・・・。

さくら ごめん・・・話すつもりなかった。黙ってようとおもってたのに・・・でも、でもね、私、よく月、月経がこなかったの。とんでもないことになっちゃったって・・・死のうかとまで思ったわ。

環 そ、そんなッ。どうして、私に言わなかったよッ。

さくら だって環が・・・

環、さくらの頬をひっぱたく。

さくら 痛ッ、何するの!?

環 あんたこそ、あんたこそ、そのお腹の子、どうしたのよッ!

さくら だって、始まったんですもの。

環 え?

さくら 死のうとしたよく朝、私、月経が始まったの。

環 な、なに!? (混乱する)

さくら 環から、山下さんの子を妊娠したって聞いたのはその後だったわ。そりゃあ、すぐくびつくりしたわ。環も山下さんにとって・・ショックだった。つらかったわ。でもね、思ったの。同じことを行って、私には赤ちゃんができなかったけど、環にはできた。きっと、これは、神様がそうお決めになったことなのよ。私と山下さんは縁がないんだって、そう思ったの。それにね、これは結婚してから、ご近所の方から、聞いたことだけど、ああいうことって相性なんですって。相性が悪いと、どんなに励んでもだめなんですって。きっと山下さんは、私より環と相性がよくって・・

環 な、なに言ってるのよッ。何が相性よッ。あたしなんか、あたしなんか・・

さくら え?

環 山下さん、さくらと私の二股かけてたなんて・・。

さくら ちよっと環。股だなんて、あんまり、いい言葉じゃないわ。この子(赤ん坊)女の子なの。言葉に気をつけてね。

環 なによッなによッ。山下さんって・・山下さんって、いったいなんなのよッ。そりゃ、そうだけど・・。でも、私ね、あの後、ダンスホールで、山下さんと環が踊っているとこ見てね・・。

環 ダンスホール?

さくら 環は妊娠して、私の方は間違いだったでしょ。だからほんとに、もうその時に、山下さんのことはあきらめたつもりだったの。でも・・未練っていうの

かなあ、そういうのが、やっぱり少しあったみたいなの。

環

さくら・・・あんた、あのダンスホールに来たの？

さくら

ええ。山下さんがよく行ってるの知ってたから。私、山下さんに、環をよろしくって言うつもりだったのよ。それで山下さんが、わかったって言ってくれたら、そしたら本当にあきらめられるとおもって・・・。そしたら、環と山下さんが楽しそうに踊ってた。

環

あの時・・・あの時だわ・・・。

さくら

その姿見て、私、つくづくおもったわ。私なんか出てっちゃいけない、ふたりはもう事実上、夫婦、子供だっている夫婦なんだからって・・・。

環

・・・さくら・・・。

さくら

なあに？

環

あんた・・・なんで・・・死のうなんておもったのよ。

さくら

だって、お嫁に行く前に、男の人とそんなことになって、赤ちゃんまでできちゃって・・・その上、その人は、他の人のもの・・・環のことよ。

環

山下さんに話そうって考えなかったの？あたしがしたみたいに。

さくら

勇氣、なかったわあ。

環

あんたって・・・。

さくら

それにね、私は大丈夫だったし。（明るく）ほら、明日、自殺しようって決めた日の朝に、きたのよ、アレが。正直いうと私、ちよつと安心したところあるの。ああ、これで、山下さんと私のことは誰にも知られないですむ、自殺しなくともいいんだって。ふふふ、私ってほんとはずるいのかもしれないわね。へへ。

環

へへじゃないわよッ。もし、月経が一日遅れて来てたら、どうなったのよ。

あんた自殺してたんでしょう!!

さくら

そういうことに・・・なるかしらね。

環

もし、あんたがそのまんま勘違いして死んでたりしたら、あたし・あたし・
・・・なんで、どうしてそんなはやとちりしたのよッ。

さくら

だってえ、私、二十八日周期だったんですもの。それが、あの時は、三十三
日たつてもこなかったのよ。

環

たった五日じゃないのッ。そんなことよくあるわよ。あたしだって二十八日
周期よ。一日だって遅れたことなんかなかったわよッ。だからだからッ。

さくら

私たち、女学校で、月経双子って呼ばれてたっけねえ。

環

でも、あるのよッ。

さくら

なにが？

環

だ、だからッ、そういういつもきちんとするのに、遅れるってことが。いろ
んな事情で、つまり、精神的なこととか・・・よししましょう。六年前の遅れ
た月経の話なんてしたって仕方ないわ。

さくら

それもそうね。

環

・・・そうよ・・・。

環、しみじみと溜め息をつく。

さくら

でも・・・環。

環

ん？

さくら

私が、山下さんのこと、あんたに話さなかったの・・・そんなにいけないこ
とだったの？

環

え・・・。

さくら

山下さんのお嫁さんになろうっていう環に、私も、山下さんと、そういうこ
とがいっぺんだけあって・・・でも、私は妊娠しなかったのよ、なんて・・・ど
うして言う必要があったの？

環 ……。

さくら ねえ、環。あんたあの後、山下さんと何があったのかは知らないけど、赤ちやんを堕ろしちゃうことはなかったんじゃない？かわいそうだわ。

環 （力なく）……うん……（赤ん坊を覗いて）あ……笑ってる……。

さくら （覗いて）うふふ。

環 ねえ……なにがおかしいのかしら……この子……。

さくら これはね、おかしくって笑ってるんじゃないのよ。

環 え？

さくら 何も……おかしいことなつか、何もないはずなのに……笑うの。

環 何も……ない？

さくら そうよ。だって、この子は、まだ、なあんにも知らないんですもの。

環 しらない……。

さくら そうよ。

ふたり、暫く、赤ん坊を覗き込んでいる。

環 ねえ……さくら。

さくら ん？

環 あんた、あの時……ダンスホールで私と山下さんを見つけた時……声かけてくれたらよかったのに……。

さくら え？

環 さくら……あんた、やっぱり、山下さんのこと……私に話してくれたらよかった……。

さくら ……。

明かり、静かにおちて・・・
音楽（ドリーゴのセレナード）

スクリーン③

音楽、残ったまま・・・はじめ定かでなく、徐々に鮮明になってくるスクリーン。

大正十二年。

ダンスホールである。

いく組かのカップルが踊っている。

その中に、環と山下の姿がある。

環の頬は、バラ色に輝いている。

字幕

「環さん、楽しさふだね」

「はい、とても」

踊り続けるふたり。

環、ちらと山下を見上げ　・

字幕

「あのう・・・山下さん・・・」

恥じらいながら、山下の胸に頬をうずめてつぶやく環。

字幕

「わたし・・・赤ちゃんができました・・・」

思わず、とまる山下。

字幕

「え？」

山下を見つめる環。

字幕

「そ、そんな馬鹿な！」

びっくりして訴える環。

字幕

「でも、月経が遅れているのです」

瞳をキョトキョトさせて山下をうかがう環。

山下、急に笑い出す。

字幕

「ハハハ・・・」

!?となる環。

字幕

「接吻だけで赤ん坊はできんよ、環さん」

訳がわからない表情の環。

字幕

「精神的な影響で、女の人には、さういふことがよくあるさうです」

山下、環をうながし、再び踊りだす。

ボーゼンとしている環。

字幕

「大丈夫。心配いりません。さあ、踊ろうふ」

環、踊りながら、作り笑いをしてみせる・・・が、すぐに複雑な表情になり

また、笑ってみせるが・・・悲しくなってるまう。

踊りつづけるふたり・・・。

(10)
舞台

スタア座の客席。

環に明かり入る。

環

・・・ずうつと言えなかったのよ、さくら。接吻だけで、赤ん坊ができるなんて、私、本気で信じ込んで・・・。ふふふ、とんだ茶番ね。ほんとに子供だった。・・・時々、あんたに本当のことを話す夢を見たわ。本当の事を話して、ふたりで大笑いしてる夢・・・。さくら・・・あんたは、私のとんでもない間違いを知らなかった。私も震災の後であんたと会うまで、あんたと山下さんのことを知らなかったわ。私たちは、肝心なことをひとつも知らなかった・・・あんなに仲良しだったのに、とりたてて、隠してたわけでもなかったのに・・・。でもね、さくら。知らなかったことは・・・なかったことではないのよ。・・・私達は知らなかった・・・でも、それはなかったことじゃない。それは・・・やっぱり・・・在ったのよ・・・。そでしょ？さくら・・・。

さくらに明かり入る。

さくら、ウトウトと眠っている。

環

さくら・・・。

さくら

・・・ん？・・・（目覚めて）映画・・・終わったの？

環

うん・・・。

さくら

ふうん・・・。今日は日曜日ね・・・ゆっくりできるわね。

環

にちようび・・・。

さくら

そう・・・。もう、日曜日よ。

環

そうね・・・。日曜日・・・。

さくら

ああ・・・おちついた・・・。

ゆっくりと目を閉じるふたり。

明かり、おちる。音楽・・・。

雨音と同時にロビーに明かり入る。

午前一時少し前をさしている時計。

大三郎、電話をしている。

大三郎

頼んだのは十二時前だよ。わかってる？・・・ん・・・だからさ、お宅、十二時過

ぎると深夜料金になるから・・・うん・・・そう？・・・じゃ、はやく頼むよ・・・

え？違うよ。ニラレバラーメンじゃなくて、普通のやつ・・・そうだよ・・・

・・・うん（切る）

大三郎、外の雨を覗いて、入口にダスキンの足拭きを敷く。

ト、そこへ、三人の若者がやってくる。

チキンとポテトとニンジンである。

三人とも、古びた半纏を着て、セカセカとやってきた　。

チキン　はい（ト、千円札を出す）

ポテト　はい（ト、千円札を出す）

ニンジン　はい（ト、千円札を出す）

行こうとする三人を、大三郎止めて、足拭きマットを指す。

チキン、ニワトリの砂けりの仕種で足を拭く。

ポテトとニンジンは、こすりつけるようにして足を拭く。

チキン、ポップコーンの自動販売機にコインを入れる。

ポサツという音がしてポップコーンが出てくる。

その袋をビリッとやぶいて、二、三個、口にはおぼりながらタカタカツと、

客席の方に行くチキン。

ポテトとニンジンも次いで入ってゆく。

強い雨音。

大三郎　（ポップコーンの販売機を見て）しけてないかなあ・・・。

ロビーの明かり落ちて客席に明かり入る。

座って、ポップコーンを食べちらかすチキン。

・・・といてもチキンのそれは、いわゆる不良っぽいそれではない。

単純に、うまく食べられない為に、散らかすハメになった（つまり、彼は、

チキンなのだから)

時々、ポテトとニンジンも横からつまみ食いをする。

そんな三人の動き、いつの間にかリズムを持つてくる。

音楽、入って、三人の動き、ひとつに決まったところで

(11) スクリーン④

“ 第二話 ” All that's Chicken

クリスマスソングが聞こえてきて、アニメーションが始まる。

アメリカの家庭。クリスマスツリーを飾っているスージーとトム。

飾り付けのモールをくわえて走る愛犬ブラッキー。

「だめよ、ブラッキー」と勿論、英語で言って追いかけるスージー。

ブラッキーは走り回りドスンとテーブルにぶつかり、クリスマスグッズが入っていた箱を頭。らかぶってしまい、笑いこぼるスージーとトム。

そんなことをしているとところに、キッチンからは、マミーが

「トーム！スージー！」などと呼ぶのである。

駆け出してゆく二人。ブラッキーも後を追う。

クリスマスグッズたちも後を追う。

キッチンでは、すばらしいクリスマスケーキができている。

歓声をあげる子供たち。

調理用のジャガイモとニンジンを子供たちに投げてよこすマミー。

スージーは、調理台にとびのってジャガイモの皮をするするとむく。

トムもニンジンを両手に持って、躍り出す。

ジャガイモもニンジンもケーキもローソクもクリスマスグッズも、皆な、

ローストチキンを持ったマミーのまわりを楽しそうに躍り出す。
そんなわけで、楽しい楽しいクリスマスイヴの準備なのである。

舞台⑧

スクリーン、終わると舞台に明かり入る。

大衆酒場“つば八”の厨房。

夜中。

明かりがもれ、冷蔵庫の中から声が聞こえてくる　・。

チキン　・・・タレにしますか・・・シオにしますか・・・カワ・・・手羽・・・カシワ・・。

タレにしますか・・・シオにしますか・・・レバー・・・スナギモ・・!! へいッ、
お待ちッ!!

飛び出してくるチキン。

チキン　（何故かガックリして）・・・っ・・・くね・・。

野菜籠から顔を出すニンジン。

ニンジン　どうしたの？チキン。

チキン　・・・。

ニンジン　へんな人ねえ、せっかくのクリスマスなのに。

チキン　クリスマスだってダメさ。

ニンジン　どうして？

チキン 君はクリスマスが楽しいの？ニンジン。

ニンジン ええ。だってエナメルのコートが着られるもの。

チキン エナメルのコート？

ニンジン そうよ。皆な言ってるわ。クリスマスのニンジンは幸せよって。

チキン エナメルのコートって・・・ニンジン。あれってエナメルじゃないよ。

ニンジン エナメルよ。ピッカピカに光るもの。

チキン 違うよ。

ニンジン エナメルよ。

チキン ちがうってばッ。

ニンジン エナメルッ！

別の野菜籠からポテト、顔を出す。

ポテト ニンジンのグラッセだ。

チキン ポテト・・・

ポテト 砂糖とバターで光ってるだけだ。

ニンジン え？

ポテト 砂糖とバターでぐつぐつ煮込むと・・・そうすると、テカテカに光るんだ、お前ら。

ニンジン エナメル・・・

ポテト ただの付け合わせだ、ローストチキンの。へっへっへー。

ニンジン い、いいもんッ。エナメルじゃなかったって・・・ク、クリスマスだもんッ！

ピカピカになるんだもんッ、私、ひっかるもんッ！

ポテト お前、キンピラだよ。

ニンジン え!?・・・キンピラ・・・？

ポテト　　そ。明日のお通しのキンピラ。

ニンジン　　ど、どうして!?

ポテト　　ローストチキンの付け合わせになる奴は、今頃、こんなどこにいないよ。お前、ここをどこだとおもってんだよ。“つぼ八”だよ、つぼ八ッ。

ニンジン　　そ・・・そんな・・・。

チキン　　ポテト・・・君は何になるの？

ポテト　　わかんない。

チキン　　ホライドポテトになるんじゃないの？・・・ローストチキンの付け合わせの。

ポテト　　別に・・・なんでもいいさ。

ニンジン　　でも、だって、クリスマスよ。ローストチキンの隣りでオシャレして、私たち・・・。

ポテト　　フライドポテトだって肉じゃがだって同じだよッ。

ニンジン　　そうかしらッ。

ポテト　　お前だって、ニンジンのグラッセだろうが、キンピラだろうが同じことじゃねえか。

ニンジン　　いいえ、違うわ。グラッセの方がオシャレよ。面とりだってしてもらえる。キンピラなんて、ゴボウと一緒に細っちく切り刻まれるだけ。全然、違う。

・・・ポテト、あんたって、夢がないのね。

ポテト　　あったさ、俺だって。

ニンジン　　そーお？じゃ、言ってみてよ。何になりたかったの？

ポテト　　ふふふ・・・。

ニンジン　　ほおら、やつぱりないんじゃない。

ポテト　　あるよ。

ニンジン　　嘘。ないわ。

ポテト　　あるッ。

ニンジン ないわよッ。

ポテト ……おでん……になりたかった。おでんのじゃがいもに……。まるごと入れるもんな。自己主張できる。

しーんとするチキンとニンジン。

チキン わかるような気がする。

ニンジン やあだア。ローストチキンになる人がなんてこと言うのよ。主役じゃない。

チキン 俺…おちこぼれたんだ。

ニンジン え？

チキン 肉屋で、ローストチキンになるやつとそうじゃないやつとわけられた時…。

ニンジン じゃ…じゃあ…。

ポテト ひよつとしてチキン…お前…

チキン (うなずく)

ポテト・ニンジン ヤキトリ?!

“ All That, s Chicken, の前奏始まる。

チキン タレにしますか、シオにしますか

ニンジン かわ、手羽…かしわ

チキン タレにしますか、シオにしますか

ポテト レバー…スナギモ…

三人 へい！おまちッ

♪タレにしません シオもいやです
はなさないでよ わかれたくない
あっちこっちに僕 そっちこっちに僕
カワが僕なの 手羽が僕なの

All That, s Chicken

All That, s Chicken

全部が僕で 全部僕じゃない

タレにしません シオもいやです
はなさないでよ わかれたくない
僕だった君 君だった僕

レバーが僕なの かしわが僕なの

All That, s Chicken

All That, s Chicken

全部が僕で 全部僕じゃない

明かり、おちる。

(13) 舞台⑨

“ All That, s Chicken, のメロディ残ったまま明かりはいる。
自転車に三人乗りしているチキン（こいでる）ポテト、ニンジン。

チキン

聞いてやるんだ！

ニンジン

誰に?!

チキン

ローストチキンにえらばれたチキンに!

ポテト

なんて?!

チキン

なんでローストチキンにえらばれたかって!

急停車。

黒田精肉店の裏口。

チキン

だめだ。閉まってる。(戸をたたいて)すいませーん、こんばんわー。

ニンジン

あけてくださあい。

チキン

(たたいて)こんばんわー。

ニンジン

ねえ、夜分遅く・・とか言ってみたら。

チキン

うん。夜分遅くうー。

ポテト

無駄だよ。

ニンジン

え・・。

チキン

だってひきょうじゃないか。

ニンジン

そうよ。同じニンジンなのに、グラッセになれる子ときんぴらになっちゃう子

がいるなんて。

チキン

俺なんかヤキトリだぜ。バラバラにされちまうんだぜ。(店の中にむかって)

お前らはいいいなーッ。丸ごとチキンやれんだもんなーッ。くそつたれ!

ニンジン

私たちにだって、聞いてみる権利ぐらいあるはずだわ。

チキン

そうだよ。やつらと僕らのどこが違うんだ?どっこも変わらないじゃんか。そだろ。

ニンジン

そうよそうよ。

ポテト

おっかしいんじゃないの。

ニンジン

なによ。

ポテト

そういう自己主張ってサ。

チキン

なんでだよ。

ポテト

だって（指して）単なるチキンで（指して）たかがニンジンでただのポテ

トだ

ろ。そういう食品群の俺たちが自己主張するなんてさ。

ニンジン

食品群は自己主張しちやいけないの？

ポテト

いけないっていうより、へんなんだよ。

チキン

だけど、君だって言ってたじゃないか。おでんのじゃがいもになりたかったって。

ニンジン

そうよ。あれは自己主張じゃなかったの。

ポテト

だからさ、あきらめただろ。

ニンジン

くやしくないの？おんなじポテトなのに、クリスマスのローストチキンのそばでフライドポテトになれる子とそうじゃない子がいるなんて。

ポテト

フライドポテトなんて、原形とどめてねえやつらなんて、俺、うらやましかねえもん。お前こそなんでそんなにニンジンのグラッセにこだわってんだよ。きんぴらだってグラッセだって、切り刻まれちゃうことにかわりねえじゃんか。

ニンジン

だって、私たちニンジンって、チキンやポテトみたいに、丸ごと自己主張ってありえないもの。馬が喜ぶくらいなもの。馬なんて嫌だもの。どうせ切り刻まれるんなら、素敵に切り刻まれたい。・・・女ってみんなそうよ。

ポテト

（うんざりして）女、女、おんなー。

ニンジン

私思うけど、あんたたちよか、私のほうがずっと健気だとおもうわ。

チキン

けなげ？

ニンジン

そうよ。ポテトにしたってチキンにしたって、結局、丸ごとって夢があるのよね。私なんて始めっからそんなこと望めないのよ。だから、せめてっっておもう

の（悲しくなってきた）・・・ニンジンって悲しい（ベソベソ泣き出す）

チキン

泣くなよニンジン。よくわかるよ、君の気持ち。だからさ、戦うんだよ。どうして僕たちは、自分で人生をえられないのか。どうして自分の好きな死に方をえられないのか。そうだろ。これは、つまり・・・自我にかかわる問題なんだ。

ポテト・ニンジン ジガ!?

ふたり、顔を見合わせる。

ポテト

（目をそらして、ひゅつと口笛を吹く）

ニンジン

そ・・・そうよね。ジガよ、ジガよね、チキン。

ポテト

あー、くつだらねえ。俺、いち抜けたーつと。

チキン

いいよ。買ってに抜けるよ。

ニンジン

そうよ。買ってに、つぼ八の肉じゃがになりなさいよ。

チキン

ポテトサラダかもな。

ニンジン

いもピザかもしれないわねッ。

ポテト

（強がって）うまそーじゃん。へん、つぼ八にはおでんもあるねーッ（ト、去る）

ニンジン

つぼ八のおでんには、ジャガイモは入ってませんよーだッ・・・行っちゃった。

チキン

いいさ、あんなやつほっとけよ。あいつなんかにわかんないんだよ。僕の・・・

ほんとの・・・悲しさなんて・・・

ニンジン

チキン・・・

チキン

ニンジンにしたってポテトにしたって、たとえ切り刻まれたって・・・ニンジンはニンジン、ポテトはポテトだろ。でも、僕は違うんだよな。

ニンジン

え？

チキン

バラバラにされるだろ・・・カワとか手羽とかキモとか・・・全部、僕だったは

ずなのに・・・僕って思えないんだよな・・・。

ニンジン

チキン・・・。

チキン

僕は・・・どこへいつちやうんだろう。

ニンジン

チキン、あんた・・・自分を残したいのね・・・。

チキン

・・・。

ニンジン

卵は？

チキン

え？

ニンジン

あんたたちチキンは、卵を産めるじゃない。卵を残すの。あんたが生きてたつて証拠になるわ。

チキン

僕、男だよ。

ニンジン

そうか・・・。

チキン

そうだよ。

ニンジン

・・・ねえッ、チキン！

チキン

ん？

ニンジン

私が産んだげる。

チキン

え!?

ニンジン

私があんたの卵、産んだげる。

チキン

ええ!?

ニンジン

あんたの卵を産んで、それであんたが少しでも悲しくなくなるんなら・・・。

チキン

え・・・。

ニンジン、唄いだす。“卵のきもち”

ニンジン

♪私にできることを言って

遠慮せずに言って

あなたのためになりたいの

卵を産むわ

卵は育つわ

チキン その卵は男の子なの？女の子なの？

ニンジン 男の子よ。

♪坊や ママの話を聞いて

よそみせずに 聞いて

あなたのパパは立派だった

チキンの中のチキンだったわ

チキン てれるなあ、ヤキトリなんだけど・・・。

ニンジン ヤキトリだってチキンよ。

♪消えてく命を 知って

在った処を 知って

あなたもおなじに生きてくように

卵はすべて

卵は生きるわ

ト、その時、店の裏口の戸がギイと開く。

はつとするふたり。

ローストチキン(声) 教えてあげるよ。ローストチキンになったわけを・・・。

音楽。

明かり、おちる。

(14) 舞台⑩

黒田精肉店の調理場。

ローストチキンがうずくまっている。

チキン ローストチキン・・・？

ローストチキン 物語がないと恐いのかい、チキン。

チキン え・・・。

ローストチキン 君の理想の物が照りは、クリスマス用のローストチキンとして死ぬというストーリーなんだね。

チキン それって物語というの？

ローストチキン ああ。

チキン じゃ、そう。その通りだよ。バラバラにされてヤキトリになっちゃう物語よか、僕、そっち。

ローストチキン 物語には登場人物が必要だ。それから観客。

ニンジン ねえローストチキン。私ね、彼の卵を産むことにしたの。そしてね、その卵の坊やに彼の物語を話してやるわ。ヤキトリ・・・でもいいと思うの。坊やはきつとわかってくれると思うの。私、わかるように話すわ。そりゃ・・・ローストチキンだったら、とても話やすいけど・・・。

ローストチキン （苦笑して）そんなローストチキンはいないんだ。

ニンジン そんなって・・・どういうこと？

ローストチキン 孤独だね、チキンだけがローストチキンになれるんだ。

チキン え？

ローストチキン 友達も恋人も、もちろん子供もいない。存在すら知られていないチキンだ
けがローストチキンになれるんだ。だからチキン、君はもうだめだよ。

チキン どうして？

ローストチキン だってほら（ト、ニンジンを見て）友達・いや、恋人かな。いるでしょう。
チキン そうじゃなくって、どうして孤独なチキンじゃないとローストチキンになれるな
いのかってことさ。

ローストチキン だって孤独なチキンには、自我がないのだから。

チキン 自我？それだよローストチキン。僕は自我を持ちたいんだ。しつかりとしたさ、
僕がチキンだっていう・・・でもダメなの？その自我があると・・・

ローストチキン 人間は自我が嫌いなんだよ、チキン。

チキン え？

ローストチキン 人間はね、自分たちの自我でへとへとだ。人間は時々いうよ。動物は幸せだ
なあ、一時間後に死ぬとしても、それを知らない。だから恐れない。俺たちは
二十年后に死ぬとしても、やっぱり死が怖い・・・。

チキン 人間って・・・死が・・・恐いの？

ローストチキン そうだよ。

チキン どうして？

ローストチキン だからさ、人間には自我があるから。

チキン ヘーえ。僕はさ、死ぬのなんかこわいつて思ったことないよ。たださ、バラバ
ラにされるのがいやなの。

ニンジン 私もよ、ローストチキン。おしやれして死にたいの。

チキン でもさ、死ぬのが恐いつていうけど、突然死んじやう人間は？事故とかポック
リ病とかで、あッて死んじやう人間は、死ぬの恐がつてるヒマないでしょう。

そういう人間は・・・死んじまつてから：恐がるのかな？

ローストチキン そんなこともないと思うけど。

ニンジン

ねえチキン。私、ポーンッてとんできたシャンパンの栓にあたって死んだパセリをしってるわ。ぼっくり死んじゃう人間で、あの子とおなじなのかしら。

チキン

ねえローストチキン。その、突然ブツツンしちゃった人間は・・・その人間の自我ってどうなるの？

ローストチキン

大丈夫なのさ。人間は生きてるうちに、自分はこの形のヒトで、こんな風に考えているヒトなんだってことを、周りにバラまいとくからね。彼がなくなっても、彼の周りの人が、彼のことをしばらくは覚えているんだ。

ニンジン

覚えているとどうなるの？

ローストチキン

みんなは話すよ、彼のことを。一年、二年、三年・・・だんだん彼のことを忘れていくけれど・・・。人間の自我は、消えてからも、そんな風にしばらく

は残ってるんだ。だけど、本当に孤独なチキンのことは誰も知らない。だれも・・・私のことを知らない。だれも・・・私の穴を埋めない。

ニンジン

穴を？埋める？

ローストチキン

そう。ニンジン、君さっき言ったろう。彼の卵に彼の物語を話してやるって。

ニンジン

ええ。

ローストチキン

彼が死んでも、君は、彼が居たってことを知ってる。それはねニンジン、彼の面影が残るってことだよ。

ニンジン

面影？

ローストチキン

君と卵は話すだろう・・・（唄う）

♪あなたのパパは立派だったわ

チキンの中のチキンだったわ

消えてく命を 知って・・・

ニンジン

♪在った処を 知って

あなたも同じに生きてくように・・・

チキン

・・・僕はね、僕として生まれて、僕のまんまで消えたい、そう思ってるん

だ。いけない？ダメなの？ローストチキン!?

ローストチキン　ローストチキンになることは、君のまんまで消えていくことじゃない。ローストチキンはたしかに丸ごとチキンだ。けどねチキン、私たちが消えたとき、その時・・・本当に宇宙に・・・死という穴があくんだ。人間はね、年に一度のクリスマスの祝いに、本当の孤独を食べるんだ。

ニンジン　人間は・・・そのことを知ってるの？

ローストチキン　いや・・・たぶん知らないだろう。でも・・・

ニンジン　でも？

ローストチキン　どうやら、本当の孤独は・・・すこぶるおいしらしい・・・。

チキン　!・・・(走り去る)

ニンジン　チキン!

音楽

明かり、おちる

(15) 舞台⑩

つぼ八の厨房。

ニンジンに、明かり入る。

ひとり、ぼっーんとしている。

ニンジン

チキン・・・チキン・・・どこ？チキン・・・私、ここ・・・。チキン・・・チキン・・・居る？

聞こえてくる数塗んのチキンの声。

「・・・ニンジン・・・ニンジン、ニンジン・・・」

ニンジン
チキン!?

明かり入ると、五人のチキンがいる。

五人のチキン
やあ！

ニンジン
チ、チキン！

五人のチキン
僕だよ。

ニンジン
・・・？・・・。

チキン A
カワです。

チキン B
手羽です。

チキン C
かしわです。

チキン D
レバーです。

チキン E
スナギモです。

唄う、五人のチキンたち。

♪タレにしますか シオにしますか

はなれちゃったよ わかれちゃったよ

僕を知ってる君 君を知ってる僕

僕らは ぽっかり 穴にならない

All That, s Chicken

All That, s Chicken

全部が僕で

だけど 全部僕じゃない

All That, s Chicken

All That, s Chicken

全部が僕で

だけど 全部僕じゃない

ポテト、やってくる。

リーゼントヘアになってる。

みんな、一瞬、ポテトがわからない。

ポテト

や。

ニンジン

ポテト？・・・なの？

ポテト

（照れて髪に手をやり）ふるさとすてちゃった。

ニンジン

え？

ポテト、唄いだす。

♪ふるさと捨てちゃった

北海道 捨てちゃった

俺 サツマイモになっちゃった

おでん屋のオヤジは言った

「ジャガイモは半分に切って煮ることにした。」

それでよかったら入んな」

たまんねえって逃げた

なんときやしなきゃ自分で

なんとかするぜ自分で

焼き芋屋のオヤジは言った

「その頭をどうにかしな。うちじゃあ丸ごと焼いてるよ。

それでよかったら入んな」

手を打とうと思った

そんなもんだろう俺は

それっきゃないさ俺は

ふるさと捨てちゃった

北海道 捨てちゃった

俺 サツマイモになっちゃった

チキンA
そうか・・・焼き芋になるのか・・・。

ポテト
・・・はずだったんだけど。

ニンジン
え？

ポテト
ちよつとドジっちゃってよ。

一同
え・・・？

ポテト
きんとんのイモになることになった。

ニンジン
きんとんってお正月に食べる？

ポテト

うん・・・。

ニンジン

す、すごいッ。すごいじゃないポテトッ。

ポテト

へへへ。それほどでもねえけどさ。

ニンジン

すごいわよお。”お正月のきんとん“なんて。ねえ、チキン。

チキンたち口々に―

「正月のつてアレだろ、重箱に入るんだろ？」「そーだよそーだよ」

「きんとんつーと栗きんとん？」「栗!」「すげえ！お嬢様じゃないか」

等々。

チキン A

(ポツリと)うらごしされるのか・・・。

はっとするみんな。

しーんとなり、みんな、暫し“うらごしされる”という気分をかみし

めてしまう。

ポテト

・・・うらごしされて・・・全部俺なんだけどさ・・・全部俺じゃない
ような気分・・・。

チキンたち

(大きくうなづく)

ニンジン

でも・・・でも、ローストチキンが言ってたじゃない。ほんとのひとり
ぼっちが死ぬことは、宇宙に穴があくことだって。それよりも・・・

チキン A

ひとりじゃないって・・・

チキン B

悪くないけど・・・

チキン A

ひとりじゃないって・・・

チキン C

みんなと一緒にだって・・・

チキン D

ことでもなくて・・

チキン A

ひとりじゃないって・・

チキン D

バラバラになっちゃうことも・・。

ポテト

結局、俺たちは・・どこにいるんだ？

唄う、みんな。

ニンジン

♪まるごとまんまで消えたい

宇宙の穴になるじゃなく

チキン B

♪まるごとまんまで生きたい

僕から僕まで在った処で

チキン C

♪まるごとまんまで消えたい

面影のこす消え方じゃなく

チキン D

♪まるごとまんまで生きたい

在った処を知るんじゃなく

チキン E

♪まるごとまんまで消えたい

消えたとたんになくなる風に

チキン A

♪まるごとまんまで生きたい

在った処が穴じゃなく

ポテト

♪まるごとまんまで消えたい

消える命があった処で

まるごとまんまで生きたい

だって・・・

All That, s Chicken

全部が僕で全部が僕じゃないなら

All That, s Chicken

All That, s Chicken

全部が僕で

全部が僕じゃなかったように・・・

明かりおちる。

音楽、少し残ってーニンジンにぽつんと明かり入る。

ニンジン

みんないっちゃった・・・。みんななくなっちゃった・・・。(かすかにクリスマスソングが聞こえてくる)クリスマスかぁ・・・。(ふと)ねえ・・・そこにいるんでしょう・・・。居るの・・・しってるわ・・・。ねえ、そばにきて・・・傍に来てよ、ゴボウさん・・・。初めまして・・・。きんぴらよ・・・。(静かにおじぎをする)

クリスマスソング、大きくなってー

明かりおちる。

(16)スクリーン⑤

きれいに飾り付けられたクリスマスツリー。

トム、スージー、ブラッキー、ママ、パパが豪華な食卓を囲んでいる。

メインディッシュのローストチキンと付け合せのフライドポテトとニン

(17) 舞台⑫

ジンのグラッセ。

引いて―家の遠景。

雪が降っている。

スタア座。

大三郎、客席の床に散らばったポップコーンを箒とチリトリで片づけている。

ふと、空腹を痛感し、ロビーへ出て、電話をする。

電話の声

(出て) ハイ、豚珍軒。

大三郎

もしもし、スタア座だけど。

電話の声

もしもし・・・？もしもし？誰？

大三郎

スタア座だよ。ずいぶん前にラーメンの出前頼んだ・

電話の声

：知らねえなあ。

大三郎

知らないって・・・いつも頼んでる・・・。豚珍軒でしょ？

電話の声

とんちんけん？なに？それ？

大三郎

え？だってさっき“ハイ、豚珍軒”って出たじゃないか。

電話の声

もしもし、誰よ、あんた。(電話の声かわって) なんだよ、イタズラ

か？もしもし・・・。

大三郎

・・・。

電話の声

どちらさんですかあ。もしもし、もしもし・・・。

暗転。

“第三話・透明人間”

のどかな音楽とともに、教育映画風の画面はじまる。

『熊メンタルクリニック』の全景。

N

ここは、都内某所にある“熊メンタルクリニック”です。ここでは、年間、百数十名におよぶ患者さんを、ユニークな治療法によって社会復帰させていることで有名です。

熊先生あらわれる（画面下に“熊メンタルクリニック院長”と出る）

熊

ま、なんだね、最近、神経症なんてのが流行ってるらしいが、だいたいがてめえの方に責任があるのが多いからねえ。言ってみりや、気の

持ちようってトコだ。べらぼうめってなモンだな。実際、この俺がいい証拠だアな。

カメラ、裏長屋に入ってゆく。

N

熊先生は、自らの体験をもとに、精神分析医の道を歩まれる結果となりました。

長屋の一角。熊先生、その前に立つ。

熊 ここネ、俺が昔住んでたトコ。汚ねえトコだけどサ。この隣りに、留が住んでいやがってよう。うちよかひでえトコだろ。ま、似たようなもんか。とにかく外
じゃなんだから、入んな。

長屋の中。熊先生、畳に座って、キセルなどふかし出す。

N 当時、熊先生は、どんなお仕事をしたらしたんですか？

熊 仕事って別段、なんもしてねえやな。このあたりの連中はみんなそうだよ。仕事みたいなもんがくりやあ出かけて行って、なきや寝てる。

ま、俺の場合は寝てる方が多かったけどね。

N そもそも熊先生が、ご自分の精神状態に異変を感じられたのは？

熊 うん、だからよ、異変もタイヘンもわかんなかったんだよなあ。ホラ、さっきも言ったように、俺ア、寝てばかりいたからさ、ココ（頭）

がおかしいらしいってのは、人くらべてみなきや自分じゃわかんねえもんだからよう、
だろ？

N それはそうですね。で、事件というのは？

熊 うん・・・ま、そう急かすなって。今、渋茶でも（ト、探すがない）ないか・・・
・しょうがねえなあ。じゃ、ま、ぼちぼち話すか・・・

事件てのかねえ、ありやあ・・・

N ある朝、お隣の留吉さんが、熊先生のところにやってらしたんですよ。

熊 そう。朝っぱらからよう、あんにやろ。

留吉、入ってくる。

留吉 おツ、いやがったな。おうツ、熊公、起きろツ。てめえ、寝くさってるバアイじゃねえ

ぞ。やい、こらッ。浅草の観音様ンとこで、てめえが菰かむって死んで
いやがるぞ。

プカアリとキセルをふかす熊先生。

N 留吉さんは、熊先生ご自身にそうおっしゃったんですね？

熊 そうだよ。この俺にだよ。

N そこにもう既に、矛盾が発生してますね。

熊 ムジユン？

N ええ。だって、熊先生はそこにそうやって、いらしたわけでしょ？その本人に死んでい
ると。

熊 そうなんだ。けど、あん時ア気づかなかったねえ。寝起きだったってせいもあつかなあ。

ぼーっとしてたしよ。でよ、留の野郎が、とにかく観音様んとこまで一
緒にきやがれっってうるせえから出かけたってわけだ。

N ご自分が死んでらっしゃるってところにですね。

熊 そう。

N で、どうでした？

熊 どうでしたって、おめえ、これがよ、いやがんの、俺が。

N いた？

熊 そうなんだ。俺がさ、こう菰かむっちゃってさ、死んでやがるワケ。

N びっくりなさったでしょう。

熊 びっくり・・・したなあ・・・。

得意気な留吉のアップ。

留吉 ほーら、みやがれ。てめえもつくづく情けねえ野郎だぜ。てめえが死んでんのにわか

ねえとはなあ。こんなあさましい姿になっちまって

・・・(すすりあげて)なあ、熊公よ・・・。

N 熊公、と留吉さんは、一緒につれていった先生におっしゃったんですね。

熊 そう。

N なんだか変な話ですが・・・で、どうしました？

熊 留の野郎が「俺が頭の方を持ってやるから、てめえ、足の方持て」って。

N 死体の・・・ですか？

熊 そう。

N で、ご自分の死体をご自分で持って・・・

熊 うん。しょうがねえよなあ・・・。

N そこで、あの名せりふがうまれたわけですね。“抱かれてんのは確かに俺だが・・・

熊 抱いてる俺は、どこの誰だろう・・・”

音楽。

クリニックのリハビリルーム。

おそろいのパジャマを着た患者たちが、リハビリにはげんでいる。

N 熊先生が、人間としての肉体を失ってみると間もなく、世の中には、熊先生と同じよう

な体験をした人が、意外と多いことがわかりました。

リハビリルームにあらわれる熊先生。

“熊メンタルクリニック・院長”とまた出る。

熊 いるんだよね、コレが。死んじゃってんのに自覚がねえやつつてのがさア。あの患者は
ポツクリ病で逝っちゃったの。むこう側の人は車にはねられて即死だっ
たんだよな、たしか。ま、考えてみりゃ、わかんねえでもねえよな。ア
ッという間に死んじゃったんだもんな。てめえの気分てのがついていか
ねえんだな。

N なるほど。そこで、このメンタルクリニックでは、様々なリハビリテーションをおこな
っているわけですね。

熊 そう。なくなっちまつてるてめえの体にあわせた“てめえ”つてのになれるように。
N といいますと？

熊 うん。例えばだ。この人は・・えーと、山田さん、だったよね。

山田 （自転車をこいでいる）ハイ、山田です。

熊 うん。毎日、こうやってサ、自転車こぎをやってもらってるの。どう？山田さん、調子
は。

山田 ハア。もう十キロぶつつづけでこいでますが、全然、ハアハアしません。

熊 でしょ。だいぶよくなってきたねえ。もう少しだよ。そのうち、一日中こいでてもへで
もなくなるから。・・とまあ、こんな具合に俺は、アドバイスなんか
しっちゃてるワケよ。

N 肉体訓練のようにおみうけしますが・・。

熊 肉体訓練？違うよ。この人は肉体がないの。死んじゃってんの、本当は。それを自覚し
なきゃいけないんだよ。ここの人はみんなそうだよ。

N ・・よくわからないのですが・・。

熊 だからさ、生きてりゃ、もうとつくにぶったおれてるだろう？ところが、いつまでやつ
ても平気。ということはだ、生きてねえんだよ、この人は。

N はあ・・。

熊 つまりさ、自分の体でもって・体でつてもおかしいけど、とにかく死んでるってこと

を自分自身でわかんなきやダメなんだ。ま、な、ここにくる人は、みんなその自覚がねえからさ、どうしようかって困っちゃってんだけどもヨ。で、口で言ってもわかんねえから、こうやって、身をもって体験してもらってるってわけ。ね、山田さん。

山田 ハイ、だんだんわかってきました。

満足気にほえむ熊先生。

ひいてー

N このように、このクリニックの患者さんたちは、特殊な神経作用によつてはなれてしま

った肉体と精神の調和をめざして、日夜、リハビリテーションに励まれています。様々な病院に通つてもいっこうに回復にむかわれない神経症にお悩みのあなた、是非一度、熊メンタルクリニックをおたずねください。きっとお力になれると思います。お問い合わせは、東京03―4444―4241。よんよんよんのしによい、まで、お気軽にどうぞ。

(03) 4444―4241熊メンタルクリニックと出る。

音楽。

(19) 舞台⑬

診察室。

熊先生と大三郎がいる。

熊先生、スクリーンをプチッと消して

熊 とまア、うちではこういう治療法でやってんだけど、あんた、どう？やってみる？

大三郎 ちょっと待ってください。私の場合は、まだ死んでないんですけど・・・。

熊 けどアレなんですよ、自分がいないような気がするんですよ、あんた。

大三郎 はあ・・・ですからね、確かに私を知っているはずのラーメン屋が・・・

熊 知らないってんですよ、あんたのこと。

大三郎 はい・・・些細なことのようですが・・・

熊 （力強く）ささいなことが大事なんだよッこの病気は。

大三郎 そ・・・そうなんですか？

熊 そうだよ。ガンでも早期発見っていうでしょ・・・あんた、噂をすれば影ってコトワザ、
しってるだろ。

大三郎 ええ。

熊 あれは、人がうわきをするから、その噂の本人があらわれるんだと思う？それとも、本
人が近づいてきたんで、みんなが噂しだしたんだと思う？

大三郎 はあ・・・

熊 実は、両方とも真なり、なんだ。

大三郎 はあ・・・

熊 つまりネ、普通の人間はそうなわけ。ところがこの病気のかかりはじめ、つまり兆候が
みえてくるとだな、このコトワザがなりたたなくなる。

大三郎 といいますと？

熊 噂もしないのに影ってなるわけだ。つまり、突然あらわれて「あー、びっくりしたア」
なんて言われることが多くなるの。あんた、心あたりない？

大三郎 そういえば（少し考えて）あります。

熊 でしょう。やっぱりだんだん影が薄くなってるんだなあ。

大三郎 影が薄くなる？

熊 そうだよ。影というか・・・まあ、人間のまわりを、こう囲っているオーラというか、霧

囲気というか、そういうもんだな。それが希薄になってくると、そいつが近づいてきても、そのオーラをだな、ほかの人には感じてもらえなくなつて“噂もしないのに影”となる。また逆に

“噂をしても影こない”つてふうにもなる。つまり、噂と影がバラバラになつちまうワケだ。

大三郎 はあ・・・。

熊 あんた、こつちがあいさつしてんのに無視されたことない？

大三郎 （少し考えて）あります。

熊 やっぱりね。

大三郎 でも、そんなのよくあることでしょう、相手が気づかなかつたとか・

熊 インヤ、それはその一瞬、あんたが見えなくなつてるんだ。つまり消えてんだな。

大三郎 ええーッ?! そうなんですか?!

熊 そうだよ。それがこの病気の特徴なんだから。こりや、あんた、遠からずくるよ。

大三郎 くるつて?・・・なにがですか?

熊 きまつてんだろ。このままだと、ポツクリいくよ、あんた。

大三郎 え・・・。

熊 まあ、早いうちに気づいてよかった。とにかく入院しなさい。

大三郎 でも、私は、そのお・・・まだ、死んでない・

熊 だからさ、早めに手をうたないと。…治せると思うよ。

大三郎 治る? 治りますか、私?

熊 うん。最近、時々いるんだ、あんたみたいなのが。透明人間病つてよんでんだけどね。

大三郎 透明人間病・・・。

熊 そう。どうも自分が人から見えねえらしい、消えちまつたらしいつて言ってねえ。ほつ

とくと、ホラ、さつき見せたフィルムの人たちみたいに、死んじまつたのに自覚がないつてやつになつちまうよ。

大三郎・・・。

熊　大丈夫。俺は、精神分析もやつから。

大三郎 え？精神分析?!でも、それって・・・

熊　安心しなさい。ちゃんと健康保険きくようにしてあげるから。あんたの場合も、一応、神経症つてことでナニしとくから。日本じゃ、精神分析に保険きかないから、本当は困るんだけどサ・・・。だけど、日本人てのは、ホントにソフトに金つかわないねえ。病気だつて、どつか痛いだの苦しいだのじゃなけりや金払わないもんねえ。むこうじゃアレだよ、精神分析医なんていっぱいいてさ、素人でもけつこう詳しかったりするんだよ。俺はパリでさ、ホテルの従業員から習ったんだもの、精神分析。

大三郎 ホテルの従業員？

熊　そ。フロントの人。ま、とにかく、これ（パジャマ）に着替えなさい。

大三郎 はあ・・・あのお・・・。

熊　なんだい？

大三郎 入院する前に・・・電話を一本したいんですけど・・・。

熊　あ、どうぞ、そこにあるから。

大三郎 すいません。お借りします。

熊　うちに電話すんの？知らないっていわれても、しらないよ。

大三郎 いえ・・・豚珍軒に・・・。その・・・ラーメン屋なんですけど・・・私のことを知らないっていった・・・。ひよつとして、間違い電話したかも・・・ね。（ダイヤルして）・・・もしもし、豚珍軒？

電話の声　　ああ。

大三郎 あの、スタア座の高山だけど・・・高山大三郎・・・もしもし。

電話の声　　・・・。

大三郎 もしもし・・・もし・・・

電話の声

高山大三郎はここにいる。

大三郎 え？・・・なんだって!?

音楽。

暗転。

(20) 舞台⑭

豚珍軒。

高山大三郎（前シーンの大三郎の分身的存在。もちろん同じ役者。

以下、この男を大三郎Bと記す）テーブルの上にのつかってライフル銃をかまえている。

店には、豚珍軒主人と、出前持ちのあき坊、大三郎の妻・キヌコ、

息子・裕次郎、義父・文蔵がいる。

皆な、怯えてる。

キヌコ あ、あんた！

裕次郎 とうさん、落ち着いてくれよ！

文蔵 大三郎くん、とにかくそんなぶつそうなものは、しまいたまえ！

裕次郎 話し合おうよ、ね、とうさん。

主人 大さん、俺が悪かったよ。あ、あんたのことすらないじゃないか。そうだろう。

大三郎B そいつ（あき坊）は知らないとか抜かしやがった。

主人 こ、こいつさ、入ったばかりなんだよ（あき坊をつかまえて）お前がへんなこという

から。やい、あやまれッ。

あき坊 だってさア、真夜中によう、ラーメン一個っきりの出前のくせに、何度も何度も催促・

大三郎 B なんだとッ（ライフルをむける）

主人 バ、バカッ。あやまれッ、あやまるんだよッ（ト、頭をおしつける）

あき坊 いてえよう・・ご・・ごめん・・。

主人 もっとちゃんとあやまれッ（ト、頭をぐいぐいおしつける）

あき坊 ほんの冗談だったんだよう。

一同 冗談?!

あき坊 ちよっとおちやめしただけじゃなかよう。

一同 おちやめ!!

裕次郎 なんだッえッ君ッ、その態度は！君みたいなのがいるから困るんだよ。

おちやめでラーメンの出前やるな！ちゃんと仕事しろよッ。わかってんのかよッ。

主人 ちよっとあんた、そんな勝手なことというけど、うちだって大変なんだからね。最近の若

いのはすぐ・・

あき坊 おやじさん、俺、やめさしてもらいます。

主人 ほ、ほら、みろ。どうしてくれるんだよ。なんだよ、電話でちよっと冗談いったくらい

でさ。大さん、俺とあんたの仲じゃないの。おちやめなんだよ、今の若

いのはみんなおちやめ・・

大三郎 B うるさいッ。

ビクッとする一同。

キヌコ あんた、あやまってるんだから許してやんなさいよ。たいしたことじゃないじゃないの。

大三郎 B ナニ？かばう気だな。おーキヌコてめえ、この若僧とデキてやがんのかよッ。

キヌコ なにバカいってんのよ。今、会ったばかりよ。あんたが豚珍軒であばれてるって、ダ

ンナから電話があって・・

裕次郎 そうだよ。僕なんか、残業で会社に泊まりだったのに、かあさんたら電話してきてさ。

キヌコ マーじゃんやってたくせに。

裕次郎 付き合いだよ、つきあいッ。

大三郎 B あばれなきや来ねえのかッ。やい、キヌコッ、てめえは亭主ほっぼって、ブタ

みてえにグーグー寝くさりやがってッ。裕次郎、てめえもだッ、ジャラ

スカ、ジャラスカ・・

文蔵 わかった大三郎くん。聞こう。な、みんな、聞こうじゃないか、大三郎くんの話を。き

つとなにか不満があるんだろう。

キヌコ 不満なんかあるはずないわよ、おとうさん。学生ん時から好きだった映画と毎日べった
りできて幸せな毎日じゃないの。だいたい、あの映画館だって、おとう
さんのもののなのよ。あんたが仕事に失敗して、ふつうなら私と裕次郎は
露頭に迷っちゃうところだったのに、おとうさんがあんたを映画館の支
配人してくれてさ。何よ、それ。ライフル銃なんだどこで手にいれた
のよ。映画じゃないんだからね、そんなもんつきつけたって、ちいッと
もわからないわよ。なにさ、ボロ映画館のおやじのくせにッ。あんたの
仕事なんて楽なもんじゃないのさ。隠居仕事だわよッ。それなのになん
の不満があるってのよッ。

文蔵 キヌコ！

キヌコ いいえ、いわせてちょうだい。あんたは、わがままよッ。あんなボロ映画館、さっさと

こわしてマンションたてればいいのよ。私はそうしたいのよッ。

大三郎 B なら、勝手にそうすりゃいい。

キヌコ なにいつてんのよ。そんなことしたら、あんた、なーんにも仕事なくなっちゃうじゃな
いの。おとうさんが、大三郎くんもまだ若いし、それじゃ気の毒だって
いって、映画好きのあんたをたてて、お情けであのまんまにしてくれて
んじゃないのよッ。あの土地、今、いくらだと思っ？坪五百万はするわ

よ。等価交換でマンション建てれば、日照権の問題もあるけど、五階建てにはできるわ。ワンフロア六世帯として、六かける五で・・・えーと、ろくご・・・しじゅうはち？

一同 ……。

キヌコ 四十八世帯は入るじゃないの。月十二万として、十二かける・・・えーと、いくつだっけ？

五十四世帯？・・・(主人に) ちょっと電卓かして。

裕次郎、 かあさんやめてよ。そんなこといつてる場合じゃないでしょ。と、とうさん、

引き金ひいてるよ。こ、殺されるよ僕たち。

主人 大さん、あんたヒマなんだよ。な。だからこんなことしちゃうんだよね。よおつく冷静になつて考えてみてくれよ。

大三郎 B うるさいッ!! (撃つ。棚のドンブリがわれる)

一同 ぎゃッ! (かくれる)

大三郎 B (不敵に笑つて) 大三郎をバカにするな。高山大三郎バンザイ。

キヌコ (恐る恐る顔を出し) 何・・・いつてんの? あんた・・・。

大三郎 B あんたじゃないッ。大三郎だッ。

裕次郎 なんかへんだよ、かあさん。

大三郎 B ダイザブロウだーッ (と、いばる)

スクリーンにパジャマ姿の大三郎 (以下、大三郎 A とする) あらわれる。

大三郎 A 俺だ!

大三郎 B 大三郎だーッ。

大三郎 A 俺だよ、キヌコ。裕次郎、とうさんだ。

大三郎 B (大三郎 A に) へへへッ。てめえなんぞ、大三郎じゃねえ。ヒヒヒッ。

主人 お、おい、大さん、どうしたんだ!?

キヌコ 誰にしゃべってんのよ、あんたッ。

大三郎 B （大三郎 A に）ざまあみやがれッ。てめえの姿は見えねえんだ。ワッハッハッ。

キヌコ 気・・・気が狂っちゃったんだわ。ど、どうしよう。裕ちゃん、どうしようッ。

裕次郎 そ、そんな・・・おじいちゃん！

文蔵 お、おちつきなさい。一時的なものだ。きっと、そうだ。一時的な病気・・・

キヌコ 病気なんて、糖尿のけがあるだけよ、この人。

文蔵 悪化したのかもしれない。

キヌコ そんなッ。糖尿が悪化して気が狂ったなんて聞いたこともないわ。

文蔵 だから、一時的な・・・

大三郎 A 違いますよ、おとうさん。糖尿はもうだいぶ良くなって・・・

大三郎 B お前らが知っている大山大三郎は、本当の大三郎じゃないんだ。大三郎が大三

郎だ。

裕次郎 やっぱりぜったいおかしいよ。とうさん自分のこと大三郎、大三郎って。

大三郎 B やいッ、裕次郎ッ。

裕次郎 は、はい。

大三郎 B お前は本当に、裕次郎か。

裕次郎 そ、そうだよ。きまつてる・・・

大三郎 B きまつてないッ。

裕次郎 か、かあさん

キヌコ し、知りませんッ。

裕次郎 とうさん、僕だよ。裕次郎だよ。しっかりしてよ。

大三郎 B 足が短い。

裕次郎 え？

一同、裕次郎を見る。

裕次郎 か、かあさん！

キヌコ 足が・・・短いつて言ってるわよ。

裕次郎 そ、そんな・・・

大三郎 B （苛々して）裕次郎のくせに、なんで足が短いんだッ。

裕次郎 そ、そんなの僕のせいじゃないよ。

大三郎 B 家柄もよくない。

文蔵 そんなムチャ言うな。

大三郎 B スクリーンデビューもしない。

裕次郎 だって、作家の兄さんがいないじゃないか。

大三郎 B （キヌコに）なぜうまなかった。

キヌコ そんなこと言ったって・・・あんた、おちついてちょうだい。裕次郎は私たちのたった

ひとりの息子でしょう。

文蔵 お前が長男なのに、裕次郎なんて名前をつけるからこういうことになるんだ。

キヌコ 私はちゃんと、裕一郎にしなしようって言いましたッ。なのに、この人がなんでも裕次

郎だって・・・

大三郎 B うるさいッ。

裕次郎 僕は裕次郎は裕次郎でも高山裕次郎なんだ。あの裕次郎みたいに、なんでもかんでもそろっちゃいないよ。あの裕次郎なんて、そろいすぎてたから若くて死んじゃったじゃないか。物事すべてうまくはいかないんだ。だから、僕はきっと長生きするよ。

キヌコ 聞いたあんだ。なんて親孝行な息子でしょう。

大三郎 B へんッ。お前が裕次郎だという証拠がどこにある。

裕次郎 え？

大三郎 B ないだろう。ざまあみろ。

裕次郎とうさん編だよ。いつものとうさんじゃないよ。

大三郎 B いつものとうさんなんぞは、本当の高山大三郎じゃねえんだ。大三郎が大三郎

だ。てめえ（あき坊）に知らねえとぬかされて、いつものとうさんは悩んだ。そして消えた。

キヌコ え？

大三郎 B しかし結果的にはよかったんだ。本当の大三郎が現れたんだからな。

キヌコ どういうこと？

裕次郎 わかんないよッ。

キヌコ なにあんた、大学生出のくせに、高卒のとうさんの言ってることが

わかんないのッ。

大三郎 B へへへ、わかんねえだろうッ。

文蔵 わかるよ、大三郎くん。私はわかったよ。きみは本来の自分を取り戻したんだね。そう
うだろ。そうなんだよね。ね。

あき坊 ただプツンきちゃっただけじゃねえかよう。

主人 あき坊！

文蔵 大三郎くん、よく聞きたまえ。今、君は自分を失ってるんだ。いいかい、本当の君はこ
んなバカバカしいことをする男じゃない私が一番よく知ってる。そうだ
ろ？本当の君は、冷静で物静かな・・・

大三郎 B そいつは消えた。

大三郎 A 消えてない！消えちゃいない！

大三郎 B だまれッ、透明人間めッ。

一同 透明人間!?

大三郎 A おいキヌコ、俺だ、おれを見ろッ。

キヌコ お、おとうさん、どうしよう。この人、本当に・・・

大三郎 B てめえ（キヌコ）は大三郎のことを何も知らない。

キヌコそんなことないわ。二十年以上も一緒に暮らしてるんですもの。そうよね、裕ちゃん。裕次郎 そうだよ。それにとうさん、そんなこと言ったら人間なんてみんなそうだよ。僕は卒業だから、そういうことには詳しいんだ。誰にだって人に知られたくないことはあるんだ。

あき坊 大学つてくだらないこと教えてんだなあ。

裕次郎 うるさいよツきみはッ。

大三郎 B 知られたくないんじゃない・・・知らないんだ。

文蔵 だからそういうもんなんだよ、人間は。

大三郎 B 違う！てめえらは、知らないことはなかったことだと思ってやがる。知らないことはなかったことじゃない。知らないことでも、そいつは・・・

大三郎 A あったんだ・・・。いや、しかし、そういうことじゃなくて・・・俺は・・・俺は・・・。

電話のベルなる。

一同、ギクツとする。

大三郎 B (あき坊に) 出ろ。

あき坊 (出て)・・・は、はい・・・。

大三郎 A もしもし、豚珍軒だね。俺だ。

あき坊 もしもし、もしもし・・・。

大三郎 A 俺だ。高山大三郎だ。

あき坊 もしもし・・・。おやじさん、何も言わないよ。

主人 え・・・。(ハツと思いつき、あき坊に目配せする)

あき坊 (気づいて、小声で) もしもし、どなたか知りませんが聞いてください。警察を・・・

あのけいさつ・・・

ライフル発砲。

ドンブリわれる。

一同　ぎゃッ！

大三郎 B　　ハハハハハ・・・

あき坊や、やだよ、俺、こんなのもうッ。俺、やめさせてもらいますッ。

主人　何言ってやがる。もとはといえば、お前がッ（胸倉をつかむ）

文蔵　ちよ、ちよつとやめなさいッ。おちつくんだ。私たちが取り乱してどうする。大三郎くんは病氣なんだ。普通じゃないんだ。ここは・・・

主人　けどね、高山さん。うちは、えらい被害ですよ。ドンブリだってあんなにわれちゃって。

文蔵　弁償するよ。弁償するから。

裕次郎　そんな必要ないよ、おじいちゃん。こいつ（あき坊）がいけないんだ。こいつの給料からひけばいいじゃないか。

文蔵　よけいなことをいうんじゃない。

裕次郎　だってそうじゃないか。殺されるんならこいつだけ殺されればいいんだ。とうさん、こいつ撃っていいよ。

キヌコ　何言ってるの、裕ちゃん。

裕次郎　僕はひとり息子だよ。とうさん、僕は殺さないよね。そうでしょ、ね、とうさん。

大三郎 A　　情けないやつだ・・・

大三郎 B　　（フンツと鼻で笑う）

裕次郎　な・・・なんか言ってよ、ねえ、おじいちゃん。

文蔵　・・・キ・・・キヌコッ、お前なんとかしろ。夫婦だろッ。

キヌコ　おとうさん！

裕次郎　そうだよ、かあさん、なんとかしてよッ。恋愛結婚だっていったじゃないか。

キヌコど、どうして今ごろ、そんなこと。

裕次郎 愛だよ、愛ッ。今のとうさんを救うには愛しかないんだ。そうでしょ、おじいちゃん。

文蔵 そ、そうだ、愛だ！

大三郎 A 愛だと？・・・何言つてんだよ・・・。

文蔵 キヌコお前やれ。

キヌコ やれつたつて・・・なにを？

文蔵 何つて・・・お前、いろいろあるだろ。そ、その、とびついていってチュッするとか。

裕次郎 なにいつてんだよ、おじいちゃん。チュッなんてそんな軽いこと言わないでよ。いい歳して。

文蔵 だ、だから・・・考えろッ夫婦だろッ。お前、二十年以上もなにやってたんだ。

キヌコ、ごくんと唾をのみこむ。

大三郎 B、銃口をむける。

キヌコ、ゆっくり大三郎 Bの方にふりかえる。

大三郎 B、引き金を引く。

思わず後ずさる一同。

キヌコ、立ちすくんでガタガタふるえる。

大三郎 A おい、よせッ。

キヌコ ……。

大三郎 A キヌコ・・・。

キヌコ ……。

大三郎 A やめろッやめてくれッ。キヌコを撃つな。

大三郎 B （キヌコに銃をむけたまま）不安か・・・女房を撃つかもしれない・・・

不安か・・・。

大三郎 A

違う。俺は、俺は撃たないッ。

大三郎 B

ふふふ・・・

大三郎 A

やめろ！

キヌコ

（うわずって）あなた！

大三郎 B

・・・。

キヌコ

・・・あなた・・・。

一同、息をのむ。

大三郎 A

キヌコ・・・。

キヌコ

あなた、あなた、あなた。

大三郎 A

キヌコ・・・。

キヌコ

愛してるわ。

一同、がくりする。

大三郎 A

ダメだ・・・。

キヌコ

そうなの。愛してます。私、あなたを愛してます。

大三郎 A

そういうことじゃないんだってば。

キヌコ

あなただって言ってくださったじゃないの。

大三郎 B

言ってない。

キヌコ

いいえ、言いました。私を・・・私を好きだといってくださいました。

嘘だったの？

大三郎 B

大三郎、嘘つかない。

キヌコ

それなら何故、殺そうとするの？

大三郎 B

バナナとおんなじだ。

大三郎 A

バナナ？

大三郎 B

大三郎はバナナが好きだ。

あき坊

やだよう、俺、もうッ。

キヌコ

いいわ、バナナでいいわ。私、バナナよ。バナナでいいから、昔みた

いに、もう一度愛してください。

大三郎 B

くさったバナナは嫌いだ。だから捨てる。これで正しい。

一同、啞然とする。

大三郎 A

なんだか・・・わかるような気がする・・・。

キヌコ

私、くさったバナナなの!? お、おとうさん！

文蔵

大三郎くん。くさったバナナはバナナだ。くさったものでも愛おしも

う。それが愛だ！くさっても鯛、くさってもハタハタ鮨。

あき坊 俺、吐きそう。

大三郎 B

好きと愛は違う。大三郎は正直な男だ。大三郎はキヌコを好きだといった。愛

してると言っていない。

文蔵

同じことじゃないか。

大三郎 B

違う。好きは自由だ。愛はうるさい。

キヌコ ひどい、ひどいわ（泣く）

大三郎 B

好きの中心は大三郎だ。すべて大三郎がえらべる。愛は不自由なだけだ。うつ

かりしてると自分がなくなる（大三郎 A に） どうだ。

大三郎 A

愛で・・・人は消えるのか・・・。バカな・・・俺は愛なんて考えたこともない。

大三郎 B

大三郎の“好きは”は、もうなくなった。だから、大三郎は、お前らをいらな

い（銃口をむける）

大三郎 A

待て。みんなを殺したら、お前も・・・

明かりおちて、大三郎 A、B のみ残る。

大三郎 A

消えるぞ。

大三郎 B

なんだと？

大三郎 A

お前に俺が消せるのか。俺が・・・高山大三郎だ。

大三郎 B

お前は“俺”だ。

大三郎 A

何？

大三郎 B

いま、お前は“俺”と言った。

大三郎 A

俺というのは、大三郎のことだ。

大三郎 B

いや、違う。お前は俺と言った。お前は“俺”だ。

大三郎 A

だから“俺”とは高山大三郎・・・そんなことをいうなら、俺にとってお前は、

高山大三郎ではない。お前は“お前”だ。

大三郎 B

大三郎、お前ではない。大三郎、大三郎だ。

大三郎 A

お前と俺だ。

大三郎 B

俺（ト、大三郎 A を指し）と（自分を指して）大三郎だ。

大三郎 A

お前と俺・・・

大三郎 B

じゃあ、大三郎はどこだ？

大三郎 A

え・・・。

大三郎 B

ほら見ろ、答えられないどう。お前は大三郎を消したんだ。そして、キヌコや

裕次郎と同じ“お前”になったんだ。

大三郎 A

何故だ。なぜ・・・“お前”になって、俺は消えてしまった？

大三郎 B

かんがえてみる（ニタニタする）

大三郎 A 何のしわざで、俺は・・・

大三郎 B お前がそれと気づかず、後生大事にしていたやつのしわざだ。

大三郎 A え・・・

大三郎 B （ニタニタする）

大三郎 A ・・・・愛・・・か？・・・（急に照れる）

大三郎 B 自分で言って照れるな。

大三郎 A いや、照れてない。いや、照れた。しかし、照れたのは性分だ。愛とは関係な

い。

大三郎 B そんなこと知るか！

大三郎 A 知らなかった・・・考えたこともなかった・・・。本当だ。しかし、仮に、

俺が愛のせいで消えたとしたら・・・。いや、そもそもなぜだ。どうして、愛で人が消えるんだ。

大三郎 B お前は“好き”をおろそかにした。自分だけを信じてすべてを選べる“好き”

より愛が立派だと思ったんだ。

大三郎 A そんなこと、意識して思ったり思わなかったりするもんじゃないよ。自然と・

・

大三郎 B 自然と、なんていうのは、怠慢のもとだ。自然と、なんてくそくらえだ。

大三郎 A でも、どうしたらいいんだ。気づかないうちに・・・お前はそれを怠慢だという

が・・・このむねにはびこっていた愛・・・いや、そんな自覚もなく、はびこってしまった・・・決して好きでないやつでも・・・消せない、消してはならないと思ってしまう、この思い・・・（はっとしてまた、照れてしま
う）

大三郎 B また照れてやがる。

大三郎 A 悪かった。しかし、さっきも言ったが、照れるのは性分だ。愛のせいなんかじゃない。

大三郎 B

愛に侵されると、お前みたいな性分になるんだ。キヌコはお前じゃない、裕次郎もお前じゃない。それどころか、やつらを“好き”でもないくせに、殺すな、消すなとぬかしやがる。ざまあねえッ。

大三郎 A

それが愛か？そいつが愛のしわざなのか？もし、そうだとしたら・・・やい、愛なんてのは、ずいぶん情けないじゃあないかッ。

大三郎 B

しるかッ。

大三郎 A

わかった。みんなを殺せ。お前のお前にあたるやつらを消してみろ。・・・これは、俺の推測だが・・・お前も消える・・・。

大三郎 B

大三郎は消えない。大三郎は不滅だ。

大三郎 A

聞いてくれ。俺は思う。お前の殺人は・・・いや、お前でも俺でもない、高山大
三郎の殺人は・・・なりたたないんじゃないか・・・。

大三郎 B、発砲！

突然、真っ暗になる。

暫しの静寂・・・。

(21) 舞台 ⑮

スタア座。

闇から、ジジジ・・・というフィルムが終わった音が聞こえてくる。明かり、ぼんやりと
入る。

スクリーン、ジジジ・・・。

はっとして立ち上がる大三郎。

客席には誰もいない。

大三郎 だいざぶ．．．おい．．．大三郎．．．。

フト、傍らのほうきとチリトリに気づく。

ほうきをライフル銃のようにかまえてみる。

大三郎 ．．．俺が残った。大三郎が消えて“俺”が残った．．．。

キヌコ、入ってくる。

キヌコ おー、さむさむ．．．あんた、何してんのよ。

大三郎 キヌコ．．．。

キヌコ 豚珍軒のダンナと釣りに行くんでしょ。六時半に待ち合わせだって言ってたじゃないの。

遅れるとまたおいてかれるわよ。あとで、グタグタ言われんのやだから

ね、ホラ（ト、釣りの荷物を投げつける）

大三郎 ．．．。

キヌコ、チケットの半券と千円札を数えだす。

キヌコ あいかわらず客の入り悪いわねえ．．．あら、千円多い。

大三郎 え？

キヌコ 千円多いわよ、あんた．．．ま、少ないよかいけど。

キヌコ、売上をしまおうとする。

大三郎、慌てて、多い分の千円札を取る。

キヌコ（ケーベツしたようにジロツと見て）土曜のオールナイトでこれだけだもんね。ここも、もう寿命ね。

キヌコ、自動販売機のお金を出したり、パンフレットを片づけたりしだす。

大三郎（つぶやく）やつは・・・いたのか？・・・

キヌコ ちよつと、なにボーッとしてんのよ。出るわよ。ちゃんと暖房消して、シャッターしめてきてよ。

大三郎、客席の方のドアをあけてみる。

誰もいない・・・。

キヌコ（あきれたように溜息をつき）切るわよ（ト、暖房を切る）

暖房機、ゴワワァーンと音をたてて、プツンと切れる。

と同時に、大三郎と客席のひとつの席のみ残して、明かりおちる。

大三郎（千円札をみつめ）・・・いたのか？・・・やつは・・・消えたのか？

やつは・・・俺じゃなく・・・お前じゃなく・・・高山大三郎・・・。

悪いやつじゃなかった・・・。

外から早朝の陽、もれてきて、商店街の宣伝放送聞こえてくる。

「おはようございます。今日も、三軒茶屋商店街をご利用いただきありがとうございます。ございま

す・・・本日、三軒茶屋敬老会館では・・・」

音楽、かきなつてー

幕